

仙台市春季テニス 富沢3部優勝

お母さんパワー全開

仙台市テニス春季大会が4月12日、若林区の若林体育館で47チームが参加して開かれた。この大会は、女子、混合、男子の3ダブルスによる団体戦を3部制で行う。1部決勝は、荒浜Aが2-1の接戦で西山Aを制し、春6連覇を達成。2部の決勝は、荒町が3-0で若林Aを下した。今回は、Aチームが3部で優勝した富沢を詳しく紹介しよう。

予選は各部を二つのブロックに分け、1位同士が10点先取の1ゲームマッチで優勝を争った。富沢Aは4戦全勝で予選を勝ち上がり、決勝は3-0のストレートで七郷Cに快勝。Bチームが優勝した昨年続き、富沢として連覇を達成した。

女子ダブルスに出場した横山佳子さんは「挑戦者のつもりで臨んだ。連覇はうれしい。一時伸び悩んだ時もあったが、頑張ってきた良かった」と話した。「楽しい仲間とともに優勝できるチームになり感激です」と、ペアを組んだ岡部

挑戦実り「感激」

順子さん。混合ダブルスに出た佐藤文枝さんは「試合前は緊張したけれど、始まったら自分のプレーに専念できました。次の大会が待ち遠しいです」と頼もしい笑顔を浮かべた。

3部に2チームが出場した富沢は平成15年に結成。現在の会員は30-70代の26人で、うち8割が幼稚園や小学校低学年のお母さんたちだ。練習は、子どもたちが不在の午前中を中心に月10回程度。主に富沢、柳生、中田の各市民センターで、一心不乱にボールを打ち込んでいる。

チームの副代表を務め、女性ながら男子ダブルスに出場した佐藤恭子さんは「テニス経験の有無を問わず、気軽に楽しめるところがメンバー増につながっています。昨年からは会員の皆さんたちも数人が入会し、パワーアップしたのが連覇の要因かも」と目を細めた。

富沢ではメタボ対策に、だんなさんを誘って一緒に楽しんでみませんか」と新メンバーを募集している。連絡先は佐藤恭子さん090(2798)8276。(仙台市・渡辺 勝利)



富沢Aの3部優勝に貢献した佐藤恭子さん

市民総合体育大会の一環として、第13回仙台市ミニテニス大会が5月3日、太白区の市体育館で開かれた。ゴールデンウィークの中日にもかかわらず、市内各地から39チーム、約300人が参加。家族や友人たちの声援が飛び交う中、14コートでラリーの応酬を繰り広げた。

大会は女子、混合、男子の3ダブルスによる団体戦を3部制で行う。予選は各部とも2ブロックに分かれ、1チームが4試合を戦う特別リーグ。ブロックの1位同士が優勝を争った。

1部決勝は、荒浜Aー荒浜Bの「身内」対決。攻め

仙台・ミニテニス大会



1部優勝の荒浜A。左から松木勇介、中沢友佑、菅野儀仁の各選手

ラリー応酬 白熱の戦い

どころは互いに知り尽くしており、予想通り荒浜Aが3-0で制した。

2部決勝は、共に攻撃力を武器とする国見ヶ丘Aと若林の顔合わせ。白熱した攻防となったものの、若林は終始、国見ヶ丘Aにリードを許し、0-3で涙をのんだ。

準優勝となった若林だが、予選の混合ダブルスで活躍した庄子莉世さん（八軒中1年）は「楽しかった。もっともっと練習して、優勝できるような頑張りたい」と笑顔を見せた。

3部決勝は順当に勝ち上がった七郷Cーれもん

野清志さん（富沢）は「ミニ（仙台市・渡辺 勝利）は守備からリズムをつくるのが持ち味で、相手の強打をしっかりとはね返す。少ないチャンスを生かして得点を重ね、2-1の接戦を制して初優勝を飾った。佐藤顕子さん（れもん）は「自分たちのプレーを見失わなかったのが良かった」と冷静に振り返る。惜敗した加藤良一さん（七郷C）は「強打を封じられた。もっと揺さぶりが必要だった」と悔しさをにじませた。そのほか試合の合間に、高齢ながらミニテニスに熱い思いを寄せる選手に話を聞いた。

3部に出場した60代の巻（仙台市・渡辺 勝利）は「真つすく戻るカットボールや、左右に変化するボールに対し、どのようなフットワークでどう打てばいいかが発信してくれている。健康維持と脳の活性化に最高」と生き生きと話していた。

2部決勝は、共に攻撃力を武器とする国見ヶ丘Aと若林の顔合わせ。白熱した攻防となったものの、若林は終始、国見ヶ丘Aにリードを許し、0-3で涙をのんだ。

準優勝となった若林だが、予選の混合ダブルスで活躍した庄子莉世さん（八軒中1年）は「楽しかった。もっともっと練習して、優勝できるような頑張りたい」と笑顔を見せた。

3部決勝は順当に勝ち上がった七郷Cーれもん

野清志さん（富沢）は「ミニ（仙台市・渡辺 勝利）は守備からリズムをつくるのが持ち味で、相手の強打をしっかりとはね返す。少ないチャンスを生かして得点を重ね、2-1の接戦を制して初優勝を飾った。佐藤顕子さん（れもん）は「自分たちのプレーを見失わなかったのが良かった」と冷静に振り返る。惜敗した加藤良一さん（七郷C）は「強打を封じられた。もっと揺さぶりが必要だった」と悔しさをにじませた。そのほか試合の合間に、高齢ながらミニテニスに熱い思いを寄せる選手に話を聞いた。

3部に出場した60代の巻（仙台市・渡辺 勝利）は「真つすく戻るカットボールや、左右に変化するボールに対し、どのようなフットワークでどう打てばいいかが発信してくれている。健康維持と脳の活性化に最高」と生き生きと話していた。

▽3部WEST 日立東日本ソニーショングラフィック
 本ソニーショングラフィック
 AXIMUM 佐藤新作石材
 5-4BLACK LABEL
 S
 ◇多賀城市早起野球協会

直径12センチのボール

週2回、50〜70代の男女20人が仙台市青葉区と泉区の市民センターの体育館で汗を流す。前半はサーブ練習やネット際でのプレーの確認などを行い、休憩を挟んで約1時間、試合形式で楽しむ。

「誰でもできるように作られたスポーツ。でも、やり始めると奥深い」と話すのは、創立メンバーの早川

みんなのいい汗★

会は2001年、青葉区健司さん(61)。ボールが軽くて飛びやすいため、アウトにならないようにこするよう打って回転をかける。不規則につぶれたボールは予想とは違つ所へ飛ん

競技は高齢者向けとして考案されたスポーツで、1986年、日本ミニテニス協会(東京都)が発足。バ

吉成ミニテニス同好会

競技の奥深さが魅力

練習は、火、土曜日の午後1時〜4時30分。仙台市青葉区、泉区の市民センターで行う。会費は月2000円。連絡先は早川さん022(279)6797。

交流楽しんで練習

会は年に8回、大会にも出場している。5月下旬の東北大会では、5チーム総当たり戦の予選リーグで1勝もできなかった。試合で勝利の喜びを分かち合つていくこともある。

メンバの浜田淑美さん(58)は「ラケットの面との当たり方が鍵を握る。相手の予測していない所へ打つ時は面白い」と声を弾ませる。

とは難しいが、練習や大会を重ねると引きこもりがちなどを通じ、メンバー同士になるが、年の離れたメンバがきずなを強めていくのがバとの交流が楽しみで、喜びになっているという。毎回欠かさず練習に来る阿部真会長(76)は「年齢と笑顔で話した。



試合形式の練習で汗を流すメンバー

(仙台市)

みやぎスポーツ

第10回迎 参加者



女性の手による運営で第10回大会

役員の仕事の休みを合わせて参加してくる委員のきめ細かな努力のようになり、今回は泉区内外から過去最多の約170人の参加を頂けました。毎年行っている試合前の抽選会。今年は第10回大会とあって「大抽選会」と銘打ち、卓球のユニホ

（富谷町・加藤恵美子）



仙台市ミニテニス協会夏季大会

21部荒浜A 2部若林A 白熱の決勝戦制す

2009仙台市ミニテニス協会夏季大会が7月11日、青葉区の青葉体育館で開かれた。1〜3部に計42チームがエントリー。開会式で七郷Cの女性3選手が「夏の暑さにも耐え、熱い熱い戦いをします」と宣誓し、大会の幕を開けた。

女子、混合、男子の3ダブルスで編成する団体戦。各部とも二つのブロックに分かれ、1チームが4試合ずつ戦う「特別と目を輝かせていた。」

2部決勝は荒町ー若林の遊佐キヨ子選手と古山レイ子選手は「チームの調子が良かっただけに、苦しい時と言いつつ、惜敗にも満足ぞ間帯もあつたが、何とか持ちこたえることができ

（仙台市・渡辺 勝利）



2部決勝。優勝はならなかったものの、女子ダブルスで勝利した荒町の古山レイ子選手

シユの応酬は、さすが1部ならではの迫力だ。2-1の接戦を制したのは荒浜A。混合ダブルスで勝った末永薫選手は「危なかった。苦しい時と言いつつ、惜敗にも満足ぞ間帯もあつたが、何とか持ちこたえることができ

（仙台市・渡辺 勝利）

スポーツパーク

みやぎ



仙台でスポ・レク・フェスタ ミニテニス

スポ・レク・フェスタ ヤーが参集。各部の頂点を目標に、多彩な攻防を9月13日、仙台市若林体育館で開かれた。今年で9回目を迎えた大会に、同市内を中心に、1部から3部まで41チーム、約300人のプレー

ム、約300人のプレーが響き渡った。試合は女子、混合、男子の3ダブルスで編成す

300人 多彩な攻防

ム、約300人のプレーが響き渡った。試合は女子、混合、男子の3ダブルスで編成す

男子ダブルス。勝った方の時が勝負だったが攻め切れなかった」と悔しうにボールを見詰めた。3部決勝は富沢Aが予選からの好調を維持し、マッシュが決まり、勝利を手にした。

中村選手は「プレッシャーで予選のようなプレーができなかったが、勝つてホッとした」と胸をなで下ろした。惜しくも初優勝を逃したアルファの佐藤仁選手は「8-8

1部で優勝した荒浜Aの軸となった一人、中沢友

の高校野球甲子園大会を思いさせる堂々たる宣誓を行い、ブロックの1位

味を發揮。いずれも確った。1勝1敗で残るは

(仙台市・渡辺 勝利)

仙台市ミニテニス秋季大会

45チーム練習成果競う

1部決勝

荒浜Aが接戦制す

高いレベル目指し交流

仙台市ミニテニス秋季大会が昨年11月28日、若林区の若林体育館で開かれた。土曜日にもかかわらず、仙台市内だけでなく、山形市の2チームを含む45チームの選手、役員約340人が参加し、日ごろの練習の成果を競った。



Aチームの1部優勝を喜ぶ荒浜の仲間たち

大会は年間成績による3部制の団体戦。各チームは女子、混合、男子の3ダブルスで編成する。各チームとも二つのブロックに分かれ、1チームが4試合ずつ戦う特別リーグ戦を行い、ブロック1位同士が優勝を争った。女子ダブルスでは、ラリが1分を経過したら双方にポイントが入る「タイムオーバー」が続き、攻守ともにレベルの高い試合を繰り広げた。混合ダブルスでは、男性が切れのあるドライブを打ち込む一方、女性が必死にボールを追って男性をフォロースする姿が印象的だった。

1部決勝は、私が所属する荒浜A(若林区)とJOY・A(同)の対戦。共に予選を全勝で勝ち上がったチームで、どのダブルスも接戦となった。荒浜Aが3-0で優勝の栄冠を手にした。現在は東京に住み、こちらでもプレーしている荒浜Aの松木勇介選手は「最近自分と同じ若い選手が多くなってきたので、私がミニテニスを始めて約4年。多くのスポーツがある中で、私がミニテニスに魅了されたのは、世代を超えた地域を超えた、たくさんの人たちとの出会いや感動を得ることができたから。これからも生涯スポーツとして、ミニテニスを楽しみながら、多くのことを学んでいきたい。(仙台市・末永 麻記)

「たい」と話した。遠見塚(若林A)と、こちらも若林区勢同士の決勝となった2部は、2-1で遠見塚が4年ぶりの優勝。3部決勝は富沢A(太白区)が、れもん(泉区)を2-1で下し、シリーズ4回目の優勝を飾った。市ミニテニス協会の鈴木孝一副会長は閉会式で「2部、3部ともにレベルが向上している」と講評した。

パーク かぎ

曜日掲載

「楽しむ姿勢」原点

仙台市ミニテニス協会冬季大会が11日、宮城野区の宮城野体育館で行われ、市内外の46チームが13部で熱戦を繰り広げた。今回は参加チームのうち、毎大会3チームをエントリーして頑張っている大和学区民体育振興会ミニテニス部(若林区)を紹介する。

◇
大和体振ミニテニス部は平成10年8月に発足した。市協会に加盟した当初の登録は1チームだったが、翌11年度から現在まで、13年度を除き3チームに。このうち2チームは、実力別の部制が導入された13年度以降、常に1部を維持している。

部員は現在、男女21人。大会での優勝経験はないものの、他のチームの愛好者たちからも親しまれている、魅力ある部だ。

練習は毎週日曜日の午後と月曜日の夜、大和小体育館で行っている。準備運動の後、まずは相原義昭部長の指導で、基本のドライブスマッシュの打ち方やフォアメーション。続く試合形式の練習では、同部長から「相手のサーブがどこに来るか、自分がどう動けばいいか、瞬時に判断するよう

に」「相手がいない場所を積極的に狙え」などと声が掛かる。

鋭いスマッシュを打ち込む武田千枝美さんは「練習でテクニクを身に付けて試合に臨み、勝つことができた時は、日常生活で経験できない感動が得られます」と話す。

また、親睦(しんぼく)を兼ねた新年会やボウリング大会、1泊での実技講習会、懇親会を毎年開いている。「部の和、人同士のつながりを第一に企画しており、会員の喜ぶ顔を見るとホッとします」と藤又智恵子副部長。

相原部長は「練習も大会

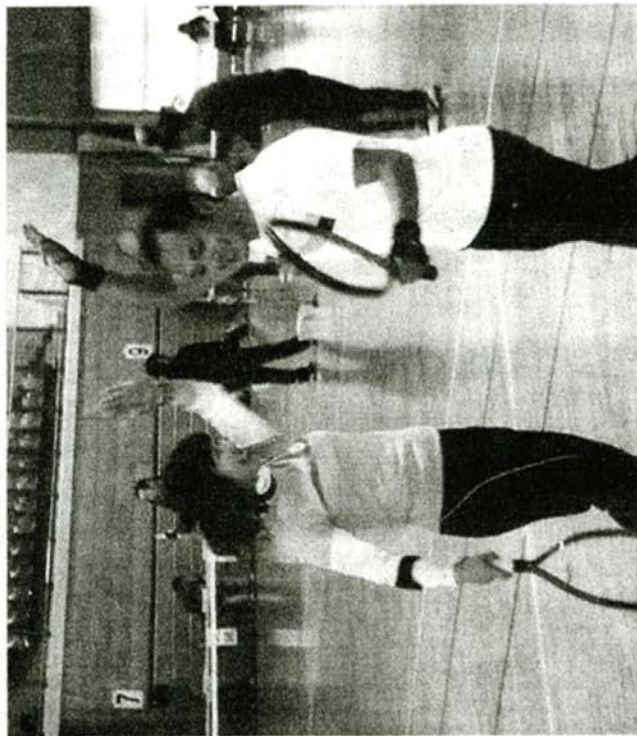
も「ミニテニスが楽しいから」という姿勢が、私たちの部のまよまりの原点だ。うまくなるまでの原動力」と強調している。

冬季大会では1部のA、B両チーム、3部のCチームのいずれも予選リーグで敗退と、残念ながら今回も壁を破れなかったが、

大和体振ミニテニス部

仙台市冬季大会は予選敗退も…

力出し切り満足感



1部予選リーグの桜A戦。混合ダブルスでストレート勝ち、ハイタッチする大和Aの小田浩一さん(右)と武田千枝美さん

部員たちからは、練習を培った力を百パーセント出した満足感がうかがえた。

大会は、1部が荒浜A、2部が国見ヶ丘B、3部は富沢Aがそれぞれ優勝した。

(仙台市・渡辺 勝利)

スポーツパーク
みずぎ

土曜日掲載